

会 議 録

1 会議名

令和7年度第1回柿崎区地域協議会

2 議題(公開・非公開の別)

(1) 自主的な審議(公開)

- ・ 柿崎区地域協議会 各委員会の取組状況について
- ・ 地域自治推進プロジェクトにおける各検討項目の方策等の検討について
- ・ 頸北地区地域協議会委員合同研修会について

(2) 報告事項(公開)

- ・ 廃校利活用に関するサウンディング(民間対話)型市場調査の実施について

(3) その他(公開)

3 開催日時

令和7年4月15日(火) 午後6時30分から午後8時12分まで

4 開催場所

柿崎コミュニティプラザ 3階 305～307 会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者(傍聴人を除く) 氏名(敬称略)

- ・ 委 員：吉井会長、中村副会長、石田委員、小出委員、小関委員、坂木委員
佐藤(達)委員、佐藤(ま)委員、滝澤委員、蓑輪委員、山川委員
- ・ 事務局：柿崎区総合事務所 新部所長、松崎次長、片岡次長、
荻谷産業グループ長、横尾建設グループ長、
石川市民生活・福祉グループ長、岩片教育・文化グループ長
長井地域振興班長、熊木副主幹

8 発言の内容（要旨）

【松崎次長】

- ・地域協議会の開会を宣言。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会議の運営は会長が行う旨を説明。

【吉井会長】

- ・会長挨拶。
- ・会議録署名委員に蓑輪委員を指名。
- ・次第 4 の自主的な審議に入る。(1)柿崎区地域協議会 各委員会の取組状況について協議する。最初に、ネットワーク柿崎について佐藤（達）委員長から取組状況の報告をお願いする。

【佐藤（達）委員】

- ・頸城区のジモ活 Base の取組を 3 月に視察研修した。資料 1 にある説明を受けた。これを受けて 4 月 1 日に資料 2 の内容でネットワーク柿崎の打合せを行った。内容はジモ活 Base の視察研修結果を踏まえた今後の取組についてということで、まず視察研修の意見交換をメンバーで行った。簡単に報告するとジモ活 Base の説明を聞いてホームページの作りがきれいだとか、若い世代の発信も意識して作られているということと、若い世代には回覧板より効果があるということ、地域独自の予算事業で運営して協賛金で 3 割を自己負担するという仕組み作りができているということ、最後にネットワーク柿崎を立ち上げた時の目指す姿がジモ活 Base そのものだと思ったという意見があった。それを受けて今後柿崎区としてどうして行くかの 3 案をメンバーで抽出した。1 つ目の案としては、今後の取組として柿崎のメンバーでジモ活 Base のようなネットワーク柿崎版を作成し運営するというのが一つ、案 2 としては頸城区のジモ活 Base のホームページを作成、運営している AMBITION という企業に柿崎版のジモ活 Base 版を作成依頼するという案が 2 つ目、案 3 としては柿崎まちづくり振興会のホームページが非常によくできているのと、そこに集約することが良

いのではないかという意見があり、そちらを編集して活用して行くという 3 つの案が前回の打合せで出ている。これを今日この後メンバーで議論して方向性を決めて行きたいと考えている。いずれにしても令和 8 年度の地域独自の予算事業に申請するという事になれば 8 月末までに計画書の提出が必要となるので、7 月中に骨子をまとめたいと前回の打合せでまとめているが、今日以降の議論の中で慎重に討議しながら時期も含めて検討していきたいと考えている。

【吉井会長】

- ・今、佐藤（達）委員長から報告があったが、ネットワーク柿崎のメンバー及びメンバー以外も含めて質問、指摘はないか。

（質問なし）

- ・スポまちプロジェクトについての報告を佐藤（昌）委員長にしてもらおうと思っていたが、本日欠席なのでスポーツクラブとのミーティングに同席した長井班長に報告をお願いする。

【長井班長】

（資料No.3 により報告）

【吉井会長】

- ・参加者が武田館長、滝澤事務局長、佐藤（昌）委員長とほかの委員が参加していないので様子がわからないが、それ以外のメンバーから質問等はないか。滝澤委員、今後方向的に何か考えているか。

【滝澤委員】

- ・特に委員会として話しているところは未定の段階である。

【吉井会長】

- ・意見交換は 4 月以降としていただきたいとあるが、もう半分が過ぎている。山川委員、今後の進め方について委員会として考えていることはあるか。

【山川委員】

- ・今のところ、スポーツクラブの構成団体と話をしていることが決まっていたが、この資料を見ると 4 月以降としていきたいというのは今、委員長が言ったことだと思うが、とりあえずスポーツクラブが今抱えている課題とかをできれば実際に施設を利用している中学生とか一番使用している人たちの意見をすくい上げて施設の活用方法や問題点をもう少し拾い出すというようなところ

を話していたところである。そこから先は、そこら辺を詰めて行かないといけない。

【吉井会長】

- ・要するにスポーツ団体と個別の話をこれから進めて行って課題、問題点を拾っていかうかということか。

【山川委員】

- ・はい。

【坂木委員】

- ・今、山川委員から言ってもらったような感じでどのスポーツ団体とやるとか決まっていなくて、武田館長と滝澤事務局長と佐藤（昌）委員長と1回会ってどんなふうなのか、そこからだという話で山川委員が言ったような人たちと協議するという事しか決まっていない。

【吉井会長】

- ・まだスポまちは、武田館長と滝澤事務局長と佐藤（昌）委員長で話し合いをもつてここで止まっているのか。早急に立ち上げて進めてもらいたい。
- ・それでは、米山薬師の方に進む。

【中村副会長】

- ・第6回米山薬師を守る会の会議の報告をする。
(資料4により説明)

【吉井会長】

- ・委員長の中村副会長から説明があった。ほかの委員及び米山薬師を守る会以外のメンバーでも質問等あればお願いします。佐藤（ま）委員いかがか。

【佐藤（ま）委員】

- ・私個人としては、柿崎山岳会の方たちがどのような活動をしてくれたのかを机上で論議するだけなので実感がなかなか湧かなかった。実際はどのようなものなのかを今年は参加しながら自分の肌で感じるため、自分が窓口になって行事計画に沿って連絡を取りながら皆さんと協力できる範囲で協力していきたい。今月は、米山薬師のメンバーがLINEで繋がって、私が連絡を回す。次に委員の皆さんとのLINEも繋げて、無理のない範囲で参加を募る。そして、米山登山の時にそこでLINEの輪を広げる。そして、それぞれの皆さんが知っている

方や山に興味を持っている方でまた、そのような輪を少しずつ広げて行った場合にどのようなことができて、どのような参加状況になって行くのか私個人として試してみたい。

【吉井会長】

- ・柿崎山岳会が年間スケジュールの中で何月何日に何をするというのが一応出ている。それで地域協議会のほうからなるべく山岳会が色々なことをやっているところに勉強がてらついて行って参加させていただけるか、今お願いしている。そうしたら、山岳会のほうからは、窓口を一つにしてほしいという依頼があり、その窓口を佐藤（ま）委員にお願いして、やっていただけるとのことなので、これから1年間佐藤（ま）委員にお願いする。蓑輪委員、何かあるか。

【蓑輪委員】

- ・来年の3月で山岳会が解散ということで、皆さん非常にタイトなスケジュールの中でやっていた。前回までの報告だと先は長くなる気がしたが、今日ここに来て良い意味で行政と連携して話す中で方向性が出てきたという印象を持った。

【吉井会長】

- ・小出委員、いかがか。

【小出委員】

- ・案3は行政としてここまではやろうと思うということを示してくれた。会計年度任用職員を雇ってということを書ってくれたので、そこに関して行政としても関わっていくという姿勢を示してくれたのは良かったと思う。それを踏まえて、ボランティアと地域の力をどう一緒にしていけるのかをこれから考えて行きたいということで、佐藤（ま）委員が提案してくれた実際に何をやっていたのかを皆で知ることと私たちも本気であるということ、ある程度山岳会の皆さんや地域の皆さんに感じていただくということも含めてできる限り頑張りたい。それを何かの形で発信していくということのも必要かと思う。

【吉井会長】

- ・柿崎山岳会がやっていたことを地域協議会が全部引き受けるわけにもいかない。委員のメンバー5人でそれを全部やろうと思っても、とても無理な話である。地域協議会の委員全員及びそのほかのメンバーも仲間に入れて、これから新し

い方向を作っていかなければならないと思うのでよろしくお願いします。ほかの委員で意見はないか。

(意見なし)

- ・ それでは(2)地域自治推進プロジェクトにおける各検討項目の方策案の検討についてに移る。事務局から総合政策部地域政策課が案として作った方策案を皆さんに配布した。これについて、皆さんから意見をいただければと思う。皆さんから意見をいただく前に(3)頸北地区地域協議会委員合同研修会について説明する。

(資料 6 により説明)

- ・ 今日は皆さんから、地域自治推進プロジェクトにおける各検討項目の方策案についてこんな問題があるという点を聞かせてもらう。全員から聞きたいと思うが、どなたかいかがか。

【石田委員】

- ・ 全ての内容を把握している訳ではなく、文書も難しく全てが理解できなかったのを感じているところで述べる。
- ・ 1 ページの地域協議会について、どういうふうに構成して行くのかを踏まえて構成人員が各種団体から募ったらどうかということと、公募にしたらどうかもあったが、まず我々が課題を把握するのに非常に難しい問題を抱えたと思う。
- ・ 色々な人から色々な話を聞く機会がその都度あれば、どういった問題があるかということがタイムリーに捉えることができるのではないか。解決に向けて取り組んで行くには時間がかかると思うが、事細かく抽出する手段の一つとして各種団体の皆さんから公募したらどうか、団体の推薦もあった方が良いのではないかということには大いに賛成である。ぜひ広く声を取れる仕組みを作って行けたら良いと感じた。
- ・ 5 ページの団体推薦や 15 ページの予算について、こちらである程度振り分けができる予算を付けるのも良いのではないかと記載されているところがあった。その辺も大いに賛成である。

【吉井会長】

- ・ その予算というのは、各区に予算を振り分けるということか。

【石田委員】

- ・ある程度こちらで決裁できるような予算があった方が柔軟に対応できることもあるのかと思う。

【山川委員】

- ・ボリュームもあって細かいところまで把握するのが難しかった。私たちもアンケートに答えたが、そのアンケートやヒアリングを基に実施案が作られ、それに対して有識者からの意見が出されていることの理解で良いか。そうなった時に気になったところが何点かあった。地域協議会のところで任期数の上限で、案は連続２期までとするとあるが、アンケート等の結果を見ると「制限を求める必要はない」の意見の方が割合からすると多いと思う。それでなおかつ任期数を連続２期までとすることにして、要するに長く続けられると新しく入ってくる方が入ってこれないという感じでここに書かれているが、果たしてそうなのか。私自身としては、連続２期までとすると決めなくても良いのではないかと思った。もう一つは、委員構成の部分で団体推薦と公募からということで、よくわからなかった部分が地域の公的な団体を対象にそこから団体推薦として地域協議会委員の定員と公募で出す定員という所があったと思うが、議会の代わりに旧町村の想いをという当初の地域協議会の成り立ちから考えると団体推薦よりも公募の委員が多い方が良い。ところがこれを見ると、団体推薦の委員を公募が上回らないとあったと思うが、それは逆なのではないかと思った。団体推薦ももちろん必要なことだとは思いますが、なかなか公募では定員に達しないという部分も確かにあると思うが、それが先に団体推薦ありきになってしまうのはいかがかと思う。

【吉井会長】

- ・山川委員の指摘は地域協議会会長会議の時に一番問題になったところである。少し紹介すると、今回のこれは団体推薦と公募が同数というふうになっている。地域協議会というのは今まですべて公募であった。推薦はない。基本的に自分から手を上げて委員になった人ばかりである。今回のこの案は推薦なので、団体から推薦で来る。公募ではない。そうすると地域協議会というのは、根本的に変わってしまう。それで、条例を変えなければならない。そこは大きい。それで良いのかという話が会長会議では一番問題が出た。それともう一つ、さきほど指摘のあったアンケートでは期数を定めない方が良いと言っているにも

拘わらず2期に限定するのはおかしいのではないかと、そちらの方を優先すること自体が間違っていると、何のためのアンケートだったのかというのがたくさん出た。

【小出委員】

- ・全体的な印象であるが、その前に今の山川委員の話に乗ると団体を決めることについて、どの団体を誰が選ぶのかということに触れられていないところが気になった。1回それを決めたら固定になるのか、良い団体が増えてくるかもしれないと考えると団体を誰が決めるのかというところがどうなるのか気になる。全体としては、まずこのプロジェクトの中で大きな課題としては人と金だと思う。お金のことは自由に使えるお金がないとか財源の問題とかについては皆さんがいろいろ言われると思う。それはほかの委員にお任せするとして、人ということについて、これを作った行政の人が何をどう思って作ったのかと思うと、人を育てる、地域を作る、例えば今回山岳会が解散してしまうのは後継者がいないから閉じざるを得ないということで、こういったことが各地で起こってくる訳で、まちを作る、人づくりをするという視点でこれに取り組んでいかなければならないという想いで言うと、ここに書いてあることがすべて、例えば集落づくり推進員という人がいるが、あまり我々一緒に仕事をした覚えがなく、本当はもっと協力していくべきではないかと改めて思う。配置するというのでこの政策は終わっているが、配置するだけではなく、その人たちが十分に活躍できて、ほかと繋がっていくためにどうするかという視点が必要なのではないか。例えば22ページの総合事務所、まちづくりセンターとのかかわりの強化という中で、「これまで以上にきめ細やかな伴走型支援を行うとともに、相互理解の促進を図る。」それだけでは、今までもきめ細やかな伴走型支援をやっていただけていたと思うところも含め、それを強化するには何が足りないのか、人が足りないのか、お金が足りないのか、体制が足りないのか、そういう視点というか、これを読んでいて本当に人を作りたいという感じではなく、「配置する」というようなところで止まっているという感じがした。

【吉井会長】

- ・今の小出委員の話は22ページがメインであった。集落づくり推進員、総合事務所及びまちづくりセンターの項目であった。

【養輪委員】

- ・全体的に良いと思う部分ともう少し改良できないかと思う部分があった。地域協議会の構成の関係で、全員公募だったのが、アンケート結果、有識者の意見を含めて示された方策案として団体推薦と公募による2つの方法であると。性別、年代、それから様々な意見から課題等を抽出するためにも今回の団体推薦という方式というのは良いのではないかと思う。会長から会長会議の様子やら発足当時の話もあったが、1年前の4月25日の新潟日報に地域協議会委員の定数充足率が6割止まりでほとんど公募してもいない、選任投票がある区も一つもなかった。中には1人しか届け出がない区もあった。結果として非常に悲惨な状況である。これは、現実として受け止めなければならない。私も公募が基本的に理想で、できれば選挙があれば非常に良いと思うが、こうした現状を踏まえると今回の団体推薦というのも致し方ないというのものもあるし、地域協議会としての使命である地域の課題を拾うというところでも性別、年代別、多様な人々を集めて協議会を作るという意味からも良いのではないかと思う。任期数について、いろいろな意見が出て具体的な話になったが、私も2期という設けは資料を読んだ時どうかと思ったが、ずっと読んでいくとアンケートの内容や有識者の話を聞くとあまり長いと組織が固定化してしまう。もちろん長く精通した人がいれば良いが、長くいすぎてしまうと新しい政策が生まれてこなかったり、組織が固定化してしまうという負の部分が当然出てくる。では、どれくらいが良いかと言われれば、なかなかそれはなくて、私も2期目に入ったが1期目で解決しきれない課題を引き継いでいくこともあり、極端に言うと、同じスタートをしたとすると全員2期までやったとすると、2期目でやめると誰一人それまで継続して審議してきた課題を知っている人が全くいなくなってしまって、また新しいメンバーでスタートするという状況が生まれる可能性が無きにしも非ずである。そういうことを考えた時に条例も改正することになるということなので、原則2期としたうえで、例えば会長、副会長など一定の協議会を引っ張って行くメンバーに関しては、状況によっては任期を延長することができるという但し書きの部分の設けて、原則任期としたうえで会議の継続性、審議の継続性というところで全く今までの経過を知る人が誰も残らない最悪の場合を想定すると任期を2期と決めてしまうと持続性、継続性の担保がない

となると困ることも想定されるので、原則２期としたうえで但し書きを設けて会長、副会長については状況によっては任期を延長することができるように設けたらどうかと思う。今、１期４年であるが、２年はやはり短すぎると感じる。何年が良いのか、状況によっては４年も長いと思ったのは、資料を見ると先ほど山川委員が言われたアンケートで新しい方がなかなか入ってこないとある。個人的には真ん中の３年というのものもあるのかと、４年が適切かわからないが、３年というとなんか短くもないし、長くもない。そんな案があっても良いのかと思った。

- ・資料の 13 ページの RMO の意味が解らなかった。今日でなくて良いので、後で教えてほしい。
- ・18 ページと 19 ページに財政支援の仕組みで、方策案 1 と 2 が示されているが、個人的には方策 1 の方が良いと思う。少し引っかかったのが、地域ビジョンを定めたらどうかというのが出てくるが、地域ビジョンを柱にしてこんなことを検討しているという方向性で資料を作ったが、確かに地域ビジョンはあった方が良くと思うが、この資料の中で出てくるのが弱点として、それにこだわり過ぎると小規模で限定的な市民活動が対象にならない場合もあると書いてあったもので、なかなか難しいところである。柿崎区はこうしたいと地域協議会で未来像を作って、それがあまり前面に出ると大きな団体もあれば、小さな趣味的なものも含めて何とか地域を盛り上げたいと頑張っている団体もできればみんな拾い上げて地域を盛り上げて行けたらと思っている。その辺が諸刃の剣で、いろいろな団体があるが、できる範囲で小さな声なり小規模な団体の活動も支援できれば良いのではないかと思う。

【滝澤委員】

- ・組織の作り方に関しても皆さんが言うとおりで、先ほど蓑輪委員が言っていた 19 ページの事業実施に係る補助率について昨年の段階では一定の率で新規のところも継続のところも同じ補助率のようなことが書いてあったが、これに関しては新規の事業を始める時エネルギーと財源を最も必要とするところなので、スタートアップを手厚くしてその後補助を減らして行く考えもあるのでないかと思っていた。

【佐藤（ま）委員】

- ・ 3 ページの地域自治区の目指す姿、その実現に向けて方策を盛り込む地域ビジョンの策定に取り組むということに私は賛成である。地域ビジョンというのは、グランドデザインみたいなものと捉えて良いのか。区の皆で区の現状、課題、そして望まれる将来像みたいなものを区全体で確認し合う。それがあつた上で何をやるかというのを地域協議会で考えることで、より無駄なものが無くなってより活動がシャープになって、そして評価もしやすくなって、次にクリアしたらより良くするためには何ができるというのが明確になるので、作るのは大変だがビジョンをみんなで確認する場みたいなものは必要だと感じている。

【小関委員】

- ・ 5 ページに委員の構成が出ているが、一つは団体推薦の委員とあるが、実際現在 14 人の委員が皆手を上げてこの協議会に参加したのか。前から気になっていた。行政が探した委員もいるのではないか。その辺も含めて、やはりこの関係については手を上げて参加してもらわないと難しいという気がする。

【吉井会長】

- ・ 公募が良いという意味か。

【小関委員】

- ・ 団体からでも手を上げて出てもらえれば良い。団体からでも公募で出てもらいたい。

【坂木委員】

- ・ 若い人たちも入りやすくするというのが 8 ページに書いてある。「子どもの預かりやオンラインでの出席を可とするなど、負担感を減らす工夫が必要」と書いてあったり、「性別、年齢のバランスの配慮をど真ん中に据えて取り組む必要がある。」と書いてあるが、やはりそれには若い人たちは報酬がないと。ボランティア的なことをあまり自ら進んでしないという訳ではないが、報酬が少しあれば子育てでお金がかかったり負担があるので、自分が仕事を途中で切り上げてくる委員もいると思うので、報酬があっても良いのではないかと思います。

【吉井会長】

- ・ 6 ページに「報酬は一定額を支給する。」とある。このことか。

【坂木委員】

- ・はい。

【吉井会長】

- ・費用弁償が必要ということか。

【坂木委員】

- ・あったら、若い人たちも少しは出ても良いと思うのではないかと思います。

【佐藤（達）委員】

- ・2つある。今、意見として上げられたが、委員の構成としては公募の方が良いと思う。5 ページに若者、女性、子ども、福祉、いろいろな団体であったり、分野の方が参画いただいて構成するのが理想的だと思う。任期数に関しては上限を設けるという所はあまり考えていないが、任期の4年に関しては初めての参画にしては長いと思う。ハードルを下げるという意味では任期の年数をもう少し縮めても良いのではないかと思います。一方で総入れ替えになった時に地域協議会として運営していくということを考えると、例えば任期4年の場合に半数を2年ラップするように半分ずつ入れ替えて行くことをすれば、活動自体を傳承しながら引き継いでいけるのではないかと思います。

【中村副会長】

- ・ざっと目を通した時には、悪くはないと思ったが、柿崎区として考えた時に地域の団体というのをどうやって決めるのだろうかというのが気になった。5 ページの上の四角に囲まれた中で、「地域協議会、住民組織、町内会長連絡協議会が候補団体を提案し、」と書いてあるが、これが本当にできるのだろうか。どういうふうに団体を候補として選ぶのかというのが、柿崎では無理なのではないかという気がした。多分柿崎だけではないのではと思う。公募と団体推薦ということだが、両方を支持しているというアンケート結果になっていたので、例えば柿崎区は14人であれば7人を公募で7人を団体推薦ということになると思うが、本当にそういうふうを選任できるのか疑問に思った。それにこだわらない方が良いのかと思った。

【吉井会長】

- ・皆さんから意見聞いた。欠席の金子委員からは、これに対しての意見が出ている。あとの2人からまだ出てきていないので、意見を聞いてまとめたいと思う。
- ・私としては、24 ページに主なスケジュール案がある。我々の任期は令和9年度

までで、令和 10 年度からこの新しいやり方でやるということなので、このスケジュールで行くと我々が任期の間は地域独自の予算事業は新制度施行までの間、現制度を据え置くということである。私は、これが一番引っかかっている。3 割負担を令和 9 年度まで行くということはままならない。何とかそれを避けてもらいたい。令和 7 年度にこれを揉んで令和 8 年度、9 年度に詰めて行くと、ここでは条例を改正しなくてはいけないので、3 年かけてやって行くということだが、今年は入り口でじっくりと皆で話し合っただけで決めて行かなくてはならない。今日、皆さんからいろいろ意見を出してもらって、皆さんの中でも問題意識が高まってきているのではないかと思う。来月の地域協議会で皆さんの意見をまとめて、もう 1 回来月話を出してもらおうと思う。最終的には 6 月の研修会の時に 4 つの地域協議会からいろいろな課題が出てくると思うので、それを 6 月の研修会の時にみんなで議論して、地域政策課に示せればと思う。追加で意見はないか。

- ・なければ、A3 の資料 6 に戻っていただきたい。日時は 6 月 14 日土曜日午後 1 時 30 分から 5 時まで、会場は柿崎コミュニティプラザ 305～307 会議室、303 会議室、市民活動室で部会に分かれて行う。1 時 30 分からスタートして研修があり地域政策課からの説明が 40 分程度、これについては事務局と地域政策課で詰めている。その後、時間配分 45 分でグループ討議を行う。グループ討議は 4 区の地域協議会委員を 6 人くらいのグループに分ける。各部屋に分かれてグループ討議を行って、テーマごとに話し合いをしていただこうと思っている。グループごとに意見を簡潔に述べて休憩し、最終的に地域政策課との意見交換を約 1 時間することで閉めたいと思う。皆さんでこれを見ていただいて、こうした方が良いのではないかという意見があったら発言していただいて、それを含んで変更していきたいと思うがいかがか。

(意見なし)

- ・事務局何かあるか

【長井班長】

- ・それぞれの地域協議会に案内を出す時にどのテーマでやってみたいか聞いても良いか。

【吉井会長】

- ・良い。ただ、研修会なので例えば吉川区はこのテーマでお願いするのではなく、一つのグループに各区の地域協議会の委員をバラバラに入ってもらおうと思う。地域ごとにテーマを選ぶというやり方はしたくない。

【長井班長】

- ・4区で54人の委員がいて、出席される委員に第1希望でどのテーマが良いかを一人ずつ聞いて、同じテーマでグループ討議したい委員でグループ分けするというのはいかがか。

【吉井会長】

- ・そういうやり方もある。参加する人が、私はこのテーマで話し合いたいと、その人がそのグループに入ってもらおうというやり方もある。

【長井班長】

- ・委員が関心のある第1希望に分けてあげた方が良いと思う。

【吉井会長】

- ・それだと固まってしまうような気がする。ほとんどが地域協議会になってしまう。

【長井班長】

- ・では、第2希望まで聞くというのはどうか。

【吉井会長】

- ・委員の皆さん、意見はないか。

(意見なし)

- ・我々が担当区なので、我々が決められるが。では、事務局と詰める。あと1週間くらいで連絡方法を決めて各地域協議会に連絡することにしたい。

【長井班長】

- ・では、日時と時間は3区の事務局に連絡する。

【吉井会長】

- ・ほかに意見はないか。

(意見なし)

- ・次に移る。5報告事項(1)廃校利活用に関するサウンディング（民間対話）型市場調査について、松崎次長お願いします。

【松崎次長】

(廃校利活用に関するサウンディング（民間対話）型市場調査について資料No.7
により説明)

【吉井会長】

- ・質問等はないか。

【小関委員】

- ・P2に15の学校があるが、地域協議会で良いかどうかかわからないが、どこにどんな学校があるかわからないのに、これを地域協議会でどうやれというのか。

【吉井会長】

- ・柿崎区の地域協議会では、柿崎区の旧黒岩小学校をどうするかという話だと思う。
- ・私から質問する。参加申込受付期間が4月4日から17日になっている。今日はもう4月15日である。ということは、明日、明後日で終わる。地域協議会への説明は今日である。黒岩の地域の方とか黒川、黒岩の町内会長連絡協議会とかへのお知らせはしたのか。

【松崎次長】

- ・その部分については存じていない。市で進める上での調査の段階なので、それを以て地域の皆さんとかと協議を重ねる前段の市の取組の報告と言うことでご理解いただきたい。

【吉井会長】

- ・スケジュールは17日まで参加申し込みで、実施日が4月23日である。それで地域協議会に説明して、「地域協議会には説明しました。」と、これで「市としてはもう終わっています。」と言われたら地域協議会は責任取れない。我々の方から黒岩や黒川のメンバーに黒岩の小学校が公募に出たと言う手立てがない。これは市としてきっちりと地域の方々に説明をしておいてもらわないと「地域協議会に説明したからもう市としては責任終わっていますよ。」と言われても困る。

【松崎次長】

- ・今の段階で市としてどう進めるかということを民間のお知恵を拝借してどう進めるかという部分の聞き取りで案を探っている状態である。今後、この学校をどうしていくかという部分はそれを参考にしながら、地域協議会の皆さんも

そうであり地域に説明しながら進めて行きたい。その前段で、民間でどういう活用方法があるか市として探りたいということでこういうことに取り組んでいるという報告である。

【吉井会長】

- ・市としてこういうことをするなら、市の広報でこういうことをやっているとか、市の広報として民間の業者にも広報し、地域の住民にも広報するというのは必要である。なぜこんなに時期が短いのだろうか。市のやっていることが、どうもタイミングがおかしい。もう少し時間がいるのではないか。

【松崎次長】

- ・当然公募についてはホームページでも公表させていただいているところではあるが、どの段階で公表するかというのは、検討されていたとは思いますが、報告事項ということで本日皆さんに報告させていただいた。

【小関委員】

- ・施設の統廃合の時は地域協議会の了解はいらないのか。

【松崎次長】

- ・この学校はすでに廃校されているところで、その後の利活用について民間にどんな利活用があるかを対話型で市場調査をしたいといったような取組になる。

【吉井会長】

- ・小関委員が言っているのはこういうことだと思う。廃校が売却なりどこかに貸付なりということが決まったとしたら、それは地域協議会へ諮問が必要なのではないかということが小関委員の質問である。それはどうなのか。

【新部所長】

- ・今回は報告事項ということで、今この施設を貸付するのか、売却するのかを決めたわけではない。白紙の状態これから民間事業者からアイデア募集をするという段階である。そこで手を挙げた民間事業者と直接対話する形でアイデアをお聞きし、その結果を踏まえて市は売却するのか貸し付けをするのか、そういった大きな方向を決めて行く。そうした段階で、また皆さんにその経過、方向性を予め協議検討させていただく場面は出てくるかと思う。今は、活用策が全く決まっていない白紙の状態で民間事業者からアイデア募集をするのを現在行っているという報告だにご理解いただきたい。

【吉井会長】

- ・その他に移る。スケジュールの説明をお願いする。

【長井班長】

- ・次の会議の開催日程を説明する。
 - (1)第1回地域協議会だより編集委員会
 - (2)第7回ネットワーク柿崎
 - (3)令和7年度第2回柿崎区地域協議会(当日配布物について説明)

【吉井会長】

- ・それでは、地域協議会をこれで閉会とする。

【中村副会長】

- ・地域協議会の閉会を宣言。
(午後8時12分閉会)

9 問合せ先

柿崎区総合事務所総務・地域振興グループ

TEL : 025-536-6701 (直通)

E-mail : kakizaki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。